

# 月例経済報告

昭和63年8月23日 経済企画庁

## 目次

### 概観

- 1 国内需要:設備投資は一段と増加
- 2 生産雇用:雇用情勢は一段と改善
- 3 国際収支:輸出はやや強含み
- 4 物価:国内卸売物価は落ち着いた動き
- 5 金融財政:長期プライムレート引上げ
- 6 海外経済:米、公定歩合引上げ

### 概観

我が国経済:国内需要は、堅調な動きを示している。個人消費は、堅調に推移しており、設備投資は、製造業は増勢を強め、非製造業は堅調に推移するなど、一段と増加している。また住宅建設は、頭打ちの感がみられるものの、高い水準で推移している。

鉱工業生産は、輸送機械、一般機械等により増加傾向にある。企業収益は、増加を続けている。また、企業の業況判断も更に改善を続けている。雇用情勢は、有効求人倍率(季節調整値)が6月は1.05倍となるなど、一段と改善が進んでいる。

輸出は、電気機器、一般機械等を中心にやや強含みに推移している。また、輸入は、製品類、食料品等を中心に増加している。国際収支をみると、経常収支の黒字幅は縮小傾向にある。対米ドル円相場(インターバンク直物中心相場)は、6月下旬に急落した後、7月から8月中旬にかけて130円台前半で推移した。

こうした中で物価の動向をみると、国内卸売物価は、落ち着いた動きとなつてゐる。また、消費者物価は、安定した動きを示している。

金融情勢をみると、短期金利は上昇し、長期金利もやや上昇した。7月のマネーサプライは、前月と同じ伸びとなった。

海外経済:アメリカ経済は引き続き拡大している。4~6月期の実質GNP(暫定値)は前期比年率3.1%増となった。貿易収支赤字(季節調整値)は4~6月期には326億ドル(6月125億ドル)と引き続き改善傾向にある。鉱工業生産は増加基調を続けており、雇用情勢も引き続き改善している。物価は、概ね落ち着いた動きを示しているものの、一部にやや高まりもみられる。金融面では、連邦準備制度理事会が8月9日、公定歩合を0.5%引上げ年6.5%とした。

西欧経済は内需を中心として引き続き緩やかに拡大している。主要4大国の鉱工業生産は増加している。物価は、このところやや高まりを示している。金融面では、イギリス、西ドイツなどでインフレ懸念、為替下落等を背景として公定歩合等の引上げが行われた。

国際商品市況は、7月後半以降、米農産物価格の反落を中心にやや弱含んだ。石油情勢をみると、スポット原油価格は、イラン・イラク紛争終結の動きにより、7月半ば以降15ドル前後で推移している。

\*

\*

\*

以上、我が国経済は、国内需要が堅調に推移し、企業収益は増加を続けており、雇用情勢も一段と改善が進むなど、拡大局面にある。

政府は、内需を中心とした経済の持続的拡大を図るため、内外の経済動向を注視し、引き続き適切かつ機動的な経済運営に努めることとする。

## 1 国内需要:設備投資は一段と増加

個人消費は、堅調に推移している。家計調査でみると、実質消費支出(全世帯)は前年同月比で5月3.8%増の後、6月は1.9%増(前月比3.1%減)となった。世帯別の動きをみると、勤労者世帯で前年同月比2.4%増、一般世帯では同0.6%増となった。最近数か月の動きを費目別にみると、教養娯楽、光熱・水道などが増加している。また、農家世帯(農家経済調査)の実質現金消費支出は前年同月比で4月5.3%増となった。小売売上面からみると、全国百貨店販売額は前年同月比で5月7.8%増の後、6月は7.1%増と好調に推移している。

また、チェーンストア売上高(店舗調整後)は前年同月比で5月5.0%増の後、6月4.1%増となった。一方、耐久消費財の販売は乗用車(軽を含む)の新車新規登録・届出台数が、前年同月比で7月(速報)は5.8%増となるなど、着実な増加を続けている。レジャー面を大手旅行業者12社取扱金額でみると、6月は前年同月比で国内旅行が2.9%増、海外旅行が21.1%増と総じて堅調な伸びとなっている。賃金の動向を毎月勤労統計でみると、現金給与総額は、前年同月比で5月3.7%増の後、6月は特別給与の伸びが高かったこと等から、4.4%増となった。また、実質賃金は5月3.7%増の後、6月は4.3%増となった。

住宅建設は、頭打ちの感がみられるものの、高い水準で推移している。新設住宅着工をみると、総戸数(季節調整値)は前月比で5月13.1%増の後、6月は公的分譲住宅等の増加により1.3%増(前年同月比1.9%増)の14万4千戸(年率172万戸)となった。4~6月期は前期比で3.8%減(前年同期比2.6%増)となった。6月の着工床面積(季節調整値)は前月比2.3%増(前年同月比0.4%増)となった。6月の戸数の動きを資金別にみると、前月比で民間資金住宅は0.2%増(前年同月比1.3%増)、公的資金住宅は6.6%増(同3.2%増)となった。

設備投資は、一段と増加している。産業別にみると、製造業は増勢を強め、非製造業は堅調に推移している。

当庁「法人企業動向調査」(63年6月調査)により設備投資動向をみると、全産業の設備投資は前期比で63年1~3月期(実績)5.8%増(うち製造業10.4%増、非製造業2.4%増)の後、4~6月期(実績見込み)は3.7%増(同1.4%増、同6.1%増)となっている。また、7~9月期(計画)は、前期比で6.2%増(同4.6%増、同7.2%増)、10~12月期(同)は3.0%増(目3.8%増、同2.6%増)と、着実な増加が見込まれている。

先行指標の動きをみると、機械受注(船舶・電力を除く民需)は、前月比で5月2.1%減(前年同月比28.4%増)の後、6月は4.0%増(同23.5%増)となり、4~6月期では前期比17.2%増(前年同期比28.3%増)と、大幅な伸びとなった。なお、当庁「機械受注調査(見通し)」によれば、機械受注(船舶・電力を除く民需)は、7~9月期は前期比7.5%減となっている。民間からの建設受注額(50社)をみると、前年同月比で5月19.4%増の後、6月(速報)は31.7%増と堅調に推移している。内訳をみると製造業は前年同月比74.8%増、非製造業は同24.5%増となった。4~6月期は前年同期比30.5%増となった。

公共工事について公共工事請負金額をみると、前年同月比で6月13.4%増の後、7月は都道府県、国等の減少により0.5%減となった。

## 2 生産雇用:雇用情勢は一段と改善

鉱工業生産・出荷・在庫の動向をみると、国内需要が堅調に推移していることから出荷、在庫とも増加傾向で推移している。このため、生産は、4～6月期に前期比0.2%減となったものの、増加傾向にある。

鉱工業生産は、前月比で5月2.3%減の後、6月は輸送機械、一般機械等すべての業種が増加したことから、3.3%増となった。また、製造工業生産予測指数は、前月比で7月は機械、化学等により0.3%増の後、8月は機械、軽工業等により0.7%増となっている。鉱工業出荷は、前月比で5月2.2%減の後、6月は、生産財、非耐久消費財等すべての財が増加したことから3.1%増となった。鉱工業生産者製品在庫は、前月比で5月0.2%増の後、6月は化学、鉄鋼等が減少したものの、輸送機械、石油・石炭等が増加したことから0.8%増となった。また、6月の鉱工業生産者製品在庫率指数は91.5と前月を1.5ポイント下回った。

最近の動きを主な業種についてみると、輸送機械では、生産、出荷とも増加傾向で推移している。在庫は、減少傾向にある。一般機械では、生産、出荷とも増加傾向にある。在庫は増加気味に推移している。化学は、依然として生産、出荷とも高水準にある。在庫は増加傾向で推移している。

雇用情勢は、求人倍率が上昇を続け、失業率も低下するなど一段と改善が進んでいる。新規求人倍率(季節調整値)は5月1.47倍の後、6月1.75倍、有効求人倍率(同)は5月0.99倍の後、6月は1.05倍となった。また、6月の完全失業者数(季節調整値)は前月差9万人減の145万人、完全失業率(同)は2.4%(前月2.5%)となった。雇用者数は、製造業、建設業で増加幅が拡大したこと等により、6月は前年同月比2.6%増(前年同月差117万人増)となった所定外労働時間(製造業)は前年同月比で5月16.5%増の後、6月は16.2%増とこのところ増勢が鈍化しているものの、なお高い水準で推移している。

企業の動向をみると、企業収益は増加を続けている。また、企業の業況判断も更に改善を続けている。大企業の動向を前記「法人企業動向調査」(63年6月調査)でみると、7～9月期の売上高、企業収益は引き続き改善が見込まれている。10～12月期までの売上高、企業収益の見通しをみるといずれも「増加」が「減少」を上回って推移しているまた、中小企業の動向を中小企業金融公庫「中小企業動向調査」(63年6月調査)でみると、業況判断、利益率判断等が改善を続けている。

企業倒産の状況を銀行取引停止処分者件数でみると、6月は682件で前年同月比0.3%増の後、7月は612件で同19.0%減となり、落ち着いている。

## 3 国際収支:輸出はやや強含み

輸出は、やや強含みに推移している。通関輸出(数量ベース)は、前月比で6月に5.6%増となった後、7月(速報)は1.9%増(前年同月比5.7%増)となった。

最近数か月の動きを品目別(ドルベース)にみると、電気機器、一般機械などが増加している。同じく地域別にみると、東南アジア向け、西欧向けなどが増加している。

輸入は、製品類等を中心に増加している。通関輸入(数量ベース)は、前月比で6月8.0%増の後、7月(速報)は航空機、金が減少したこともあり3.5%減(前年同月比15.4%増)となった。原油輸入価格(CIFベース)は、7月は1バーレル当たり16.0ドルと前月に比べ0.3ドル下落した。

最近数か月の動きを品目準(ドルベース)にみると、製品類、食料品などが増加している。

国際収支をみると、経常収支の黒字幅は縮小傾向にある。6月(速報)の経常収支(貿易収支のみ季節調整値)は、貿易収支の黒字幅が縮小し、貿易外収支と移転収支の赤字幅が拡大したた

め、その黒字幅は縮小し、6,644億円(52.3億ドル)となった。長期資本収支をみると、本邦資本の流出超過幅が債券の取得超過額の減少等により縮小し、外国資本が流入超過に転じたため、その流出超過幅は1兆2,715億円(100.0億ドル)と縮小した。短期の資本取引の合計(短期資本収支と符号を転じた金融勘定の合計)は7,069億円(55.6億ドル)の流入超過となった。なお、6月の基礎的収支は4,545億円(35.8億ドル)の赤字、総合収支は1兆1,270億円(88.6億ドル)の赤字となった。

7月末の外貨準備高は、月中12.1億ドル増加し、889.1億ドルとなった。

外国為替市場における対米ドル円相場(インターバンク直物中心相場)は、6月下旬に急落した後、7月から8月中旬にかけて130円台前半で推移した。他方、対マルク相場(対顧客電信売相場)は、7月から8月上旬まで概ね上昇し、8月中旬には一時70円台となった。

#### 4 物価:国内卸売物価は落ち着いた動き

国内卸売物価は、落ち着いた動きとなっている。7月の国内卸売物価は、C重油、ひのき正角、VTR等は値下がりしたものの、大豆油、配合飼料、小形棒鋼等の値上がりに加え、電力の夏期割増料金の適用から前月比0.2%の上昇(前年同月比0.4%の下落)となった。また、輸出物価は、契約通貨ベースでの上昇に加え、円安から前月比2.4%の上昇(前年同月比2.6%の下落)となった。輸入物価は、契約通貨ベースでは下落したものの、円安から前月比2.1%の上昇(前年同月比4.3%の下落)となった。この結果、総合卸売物価は前月比0.6%の上昇(前年同月比0.9%下落)となった。

商品市況(月末対比)は、繊維、木材、石油などの下落により7月は下落した。7月の動きを品目別にみると、大豆油、棒鋼等は上昇したものの、生糸、ひのき正角、灯油等が下落した。

消費者物価は、安定した動きを示している。6月の全国指数は、生鮮野菜、生鮮魚介等の下落から前月比0.2%の下落(前年同月比0.2%の上昇)となった。

7月の動きを東京都区部速報でみると、夏物衣料の値下がりや生鮮魚介、生鮮野菜等の下落から、前月比0.1%の下落(前年同月比0.8%の上昇)となっている。なお、生鮮食品を除く総合(季節調整値)は前月比保合いとなっている。

#### 5 金融財政:長期プライムレート引上げ

最近の金融情勢をみると、短期金利は上昇し、長期金利もやや上昇した。7月のマネーサプライは、前月と同じ伸びとなった。

短期金融市場をみると、7月の短期金利は、季節的要因に加えて、市場で金利の先行不透明感が強まったこともあって、上昇した。この結果、7月末のコールレート(有担保、無条件物)は3.8125%(6月末3.6875%)、CD新規発行レート(90日以上120日未満、最終週約定平均)は4.82%(同4.56%)となった。8月に入っても、やや上昇した。

公社債市場をみると、7月の国債流通利回りは、円相場の動きをうけて月初上昇したが、下旬にはやや低下した。この結果、7月末の国債流通利回り(指標銘柄)は、4.915%(6月末4.865%)となった。8月に入っては、月上旬に上昇した後、中旬にはやや低下した。

6月の全国銀行の貸出約定平均金利は、短期では0.001%低下し、長期では1月のプライムレート引下げの影響もあって0.020%低下した。総合では前月比で0.007%低下し、4.911%となった。民間金融機関は、8月1日に長期プライムレートを0.2%引き上げ5.7%とした。

マネーサプライ(M<sub>2</sub>+CD)の月中平均残高を前年同月比でみると、6月11.1%増の後、7月(速報)も、11.1%増と前月と同じ伸びとなった。通貨種類別にみると、預金通貨は伸びを低めたが、準通貨は大口定期預金、MMCの増加から伸びを高めた。

なお、日銀券の月中平均発行残高は、前年同月比で6月11.4%増の後、7月も11.4%増となった。

企業金融の動向をみると、企業の資金需要は、設備資金、運転資金とも引き続き堅調に推移している。

株式市場では、7月の相場は、一進一退で推移した後、ニューヨーク株式市場の上昇等から下旬には上昇した。この結果、7月末の東証株価指数は2,247.03(6月末2,183.10)となった。8月に入つては、上旬に下落した。

## 6 海外経済:米、公定歩合引上げ

アメリカ経済をみると、実質GNPは、88年1~3月期前期比年率3.74%増の後、4~6月期には同3.1%増(暫定値)と引き続き拡大している。

実質個人消費は、4~6月期には前期比年率2.3%増となった。実質民間住宅投資は、基調として低迷しており、住宅着工件数は、4~6月期前期比0.2%減の後、7月には前月比2.4%増となった。実質民間設備投資は、4~6月期には前期比年率14.0%増と引き続き堅調となっている。製造業稼働率は、7月83.7%と高い水準にあり、非軍需資本財受注は4~6月前期比0.2%減となったが、なお水準は高い。実質在庫投資は、4~6月期は農産物在庫投資、非農業在庫投資ともに減少し、GNP成長率への寄与度は前期比年率でマイナス2.2%となった。対外面をみると、4~6月期の実質輸出が前期比年率8.0%増と好調を維持する一方、実質輸入は同6.2%減となったため、純輸出の成長率への寄与度は1.9%とプラス幅が拡大した。

鉱工業生産は、輸出、設備投資の伸びを背景に4~6月期前期比1.1%増の後、7月前月比0.8%増と増加基調を続けている。

雇用情勢は、引き続き改善している。失業率(軍人を含む)は4~6月期5.4%の後、7月も5.4%と低い水準にある。

物価は、概ね落ち着いているものの、一部商品やサービス価格にはやや高まりもみられる。完成財卸売物価は、6月に前月比0.4%の上昇の後、7月は同0.5%の上昇(前年同月比2.4%の上昇)となった。

消費者物価は、5月に前月比0.3%の上昇の後、6月は同0.3%の上昇(前年同月比4.0%の上昇)となった。

貿易動向をみると、通関ベースでみた貿易収支赤字(季節調整値)は6月には125億ドル(5月98億ドル(改訂値))と拡大したものの、4~6月期では326億ドルと前期から48億ドル縮小し、改善傾向にある。

金融面をみると、長期金利がやや強含みで推移する一方、短期金利は上昇を続け、連邦準備制度理事会は8月9日、公定歩合を0.5%引き上げ年6.5%とした。7月のマネーサプライ増加率(87年10~12月期比年率)は、 $M_2$ が6.6%、 $M_3$ が6.8%といずれも目標圏( $M_2$ 、 $M_3$ ともに4.0~8.0%)内で推移している。

財政面をみると、6月の連邦財政収支は、歳入が前年同月比164.0億ドルの大幅増となったことなどから、94.9億ドルの黒字となり、前年同月に比べ99.7億ドルの改善となった。

政府は、88年度の財政赤字を当初の1,467億ドルから1,523億ドルに、89年度を1,295億ドルから1,227億ドルに各々改訂した財政見通し年央報告を発表した。

西欧経済をみると、西ドイツでは、輸出の増加、設備投資の回復などから経済は緩やかに拡大

している。フランスでは、個人消費の伸び悩みがみられるが、設備投資が堅調に推移しており、経済は緩やかに拡大している。イタリアでは、個人消費や設備投資を中心とした内需の好調から、経済は拡大を続けている。イギリスにおいても、外需は伸び悩んでいるが内需は堅調であり、経済は引き続き拡大している。主要4大国の鉱工業生産は、4月は前月比0.1%増、5月は同0.3%増となった。

雇用情勢をみると、EC12か国の失業者数は前年同月を下回っているが、その水準はなお高い(6月1,540万人、失業率4月(季調値)11.4%)。物価は、イギリスを中心に、このところやや高まりを示しており、EC12か国の消費者物価前年同月比上昇率は、5月2.8%の後、6月は3.0%となった。金融面では、イギリスがインフレ懸念等を背景に6月以降7回にわたり政策金利を引き上げ、西ドイツ、オランダ等でも7月初の公定歩合等引上げ後も政策金利の引上げが行われた。なお、フランスでは、7月上旬、市場介入金利を引き下げた。

韓国では、内需の好調に加え、伸びに鈍化は見られるものの輸出も拡大を続けており、経済は引き続き拡大している。失業率はこのところ低水準で推移しているが、物価には食料品価格の上昇等から高まりが見られ貿易黒字は拡大が続いている。

国際通貨市場をみると、米ドルは6月下旬から7月初にかけて一段高となった後、概ね堅調で推移した。

国際商品市況は、6月大幅上昇の後、7月前半も堅調であったが、後半以降、降雨による米農産物価格の反落を中心にやや弱含みとなった。

石油情勢をみると、原油供給が増加傾向にあるなかで、スポット原油価格(北海ブレント)は、6月末以降おおむね14ドル台で推移したが、7月半ば以降は、イラン・イラク紛争終結の動きにより、OPECの協調が高まるとの見方も出たことから、15ドル前後で推移している。

[発行年リストへ](#)   [発行年月日リストへ](#)